

第40回宮崎県子ども・子育て支援会議発言要旨

- 1 開催日時 令和8年8月17日（月） 午後2時～午後3時30分
- 2 開催場所 宮崎県庁5号館521号室
- 3 出席者 あつたようこ おがわ み ゆ き か じ き くろきひとみ くろきゆみこ
熱田陽子、小川美由紀、加治木のぞみ、黒木仁美、黒木有美子、
こ ぜ ら さ さ き し ゆ う さ ほ た の り し お み つ か つ や な り た か
小瀬良こずえ、佐々木慈舟、佐保忠智、塩満克也、成田あす香、
みのべはじめ やしきかずひさ
袁部 初、屋敷和久
(以上五十音順。敬称略。)

4 議事等の概要

○議事

宮崎こども未来応援プランの実績について

○報告

- (1) 少子化の現状と対策等について（子ども・若者プロジェクト）
- (2) 保育人材の確保について

【主なやりとり】

○議事：宮崎こども未来応援プランの実績について

資料1ー1、1ー2及び参考資料1から5について、事務局から説明。

その後、内容について質疑応答等が行われた。

（委 員）・合計特殊出生率1.8の根拠は。

（事務局）・令和5年度から「日本一挑戦プロジェクト」を進めているが、事業を開始するにあたって当時沖縄県の合計特殊出生率が1.8であったことから、その数値を目標として掲げたもの。

（委 員）・本県の既婚者の出生率は。

（事務局）・国が公表している夫婦から生まれる完結出生数の直近の数値は1.9人となっている。なお、都道府県レベルでの数値は算出されていない。

(委員)・読書が好きだと答えた小中高児童生徒の割合が大きく落ち込んでいるが、幼児期も含めて読書は大切なので、教育委員会とより連携を図って欲しい。

(事務局)・デジタルメディアの普及により、本に触れる機会が減少したことが未達の主な理由と考えている。

・県では、モデル地域を選定して幼保小連携の取り組みを進めているところであるが、教育委員会とも連携しながら地域に根差した取り組みを着実に進めていく必要があると考えている。

(会長)・どれだけデジタル化が進んでも、豊かな感性を育てるために読書は非常に重要なことだと思うので、引き続き教育委員会とも協議してもらいたい。

(委員)・県外の大学や専門学校で学びを深めた若者が宮崎に戻ってきたい、ここで働きたいと思える環境整備が大切だと思っており、こういった方の受け皿整備も進めて欲しい。

○報告

(1) 少子化の現状と対策等について(子ども・若者プロジェクト)

(会長)・「ひなたの縁結びさん」の募集状況は。

(事務局)・2か月前から募集を開始したところであるが、現状50名にはまだまだ届いていない状況。

(会長)・ベビーケアルームは県の施設に設置するのか。

(事務局)・おっしゃるとおり、県立施設30施設に設置を予定している。

(委員)・AI教材の活用などデジタル化による効率化が進む一方で、実物の本に触れる体験など「ホンモノ」に触れる機会は重要だと考える。

・教育委員会の方から実際の小学校の現場の状況を聞いた上で、子どもやそれを取り巻く大人も幸せになれる環境整備について、話し合う機会があればありがたい。

（２）保育人材の確保について

- （委員）・養成学校を卒業して保育所に就職したものの、ブラックな現場であったために、辞めたいと言うような声も聞いている。
- ・法人監査や施設監査をより強化し、不適正な園について是正できる仕組みがしっかり構築されれば、豊かな保育現場が生まれると思う。
 - ・潜在保育士の方が、現場に戻ってくれば保育士不足は起きないので、その方達が戻って来られる環境を整備すべきである。
- （委員）・せっかく保育士になっても、職場に行くことが嫌になり辞めてしまうような状況もある。
- ・豊かな保育を実現するためには、働きがいのある職場環境づくりが重要。
 - ・幼児教育センターの活動を始め、改善するための手立てを検討いただきたい。
- （委員）・県の介護分野で実施している「みやざき働きやすい介護事業所認証制度」の保育版があれば働きやすい環境整備に繋がるのではないかと考える。